



ごあいさつ

医療連携福祉センター長 成松 英智



4月から医療連携福祉センター長を拝命いたしました高度救命救急センターの成松です。よろしくお願いいたします。

現在COVID-19の反復的流行が医療・社会システムを混乱させ、病院間医療連携にも大きな影響を及ぼしています。COVID-19対応病院では、病院運営・経営、感染管理、職員管理、医療安全等の諸問題を乗り越えながら、社会的責務が遂行されています。経験・ノウハウの蓄積や制度の整理により初期ほど混乱は目立たなくなりましたが、未だ問題山積であり、患者数増加に備えたさらなる病床数確保が喫緊の課題となっています。

またCOVID-19の感染拡大により、通常医療にも影響が出ています。医療提供体制の社会的な増強が不十分な中での施設、病床、人員、医療資器材等の動員により、通常診療も2次的に圧迫されてきています。待機可能な治療の実施延期や直ちに行うべき治療まで実施困難な状況等の医療システムの混乱は、すでに他の爆発的感染拡大地域で顕性化しています。

このような災害的状況下で患者さんへ必要かつ適切な医療を提供し続けていくためには、我々の協調・協力関係が不可欠です。それぞれの病院が持つ背景、使命、機能、特徴、専門性等から相互に役割や機能を補い合い、社会全体として医療機能を維持しこの混乱に打ち勝っていかなくてはなりません。

このCOVID-19との戦いは、皆様方ご自身の健康・感染管理が前提となります。その上で一人でも多くの患者さん方に最大の治療効果を発揮できるよう力を合わせて頑張っていきたいと思います。

札幌医科大学附属病院は、大学病院として、特定機能病院として、また基幹災害拠点病院として高度先端医療や災害医療等の面から医療における役割を積極的に果たし、皆様との強固な連携のもと共に地域医療を担っていく覚悟です。これからも御協力を賜りますようお願い申し上げます。(5月某日)

○入院支援係設置のお知らせ – PFM導入について –

令和3年4月1日に、**入院支援係が設置**されました。入院支援係では、PFM（Patient Flow Management）の立ち上げ・推進に関与し、外来患者を対象に入院前面談を通して、入院前から退院を見据えた支援業務を行っております。現在、看護師2名が4診療科の患者さんを中心に入院前面談に関わっています。

入院前面談では、患者さんの基本情報をお聞きし、入院前に必要な準備（栄養状態の評価・改善へのアプローチ、アレルギー食への対応、服薬状況の確認等）を担当医師・薬剤師・管理栄養士等と協働しています。また、入院前から退院までの間、迅速かつシームレスな（途切れのない）関わりができますよう、病棟看護師をはじめ医療連携福祉センター内の他の係とも連携を図っています。さらに、近年、有料室を希望される患者さんが増えている傾向にあることから、有料室の希望の有無と病室のタイプ等も詳細にお聞きしております。

当看護管理者は、院内の病床コントロールにも関与しています。具体的には、患者さんのニーズに近づける形で有料室の確保、自部署以外での入院病棟の調整といった共用ベッドの運用・管理を行い、予定された入院がスムーズにできるような支援をしています。

わたしたち入院支援係は、患者さんが安心して療養及び地域での生活ができますようご支援させていただくとともに、効果的・効率的な病床コントロールを促進し病院経営にも貢献できるよう尽力して参りたいと考えております。

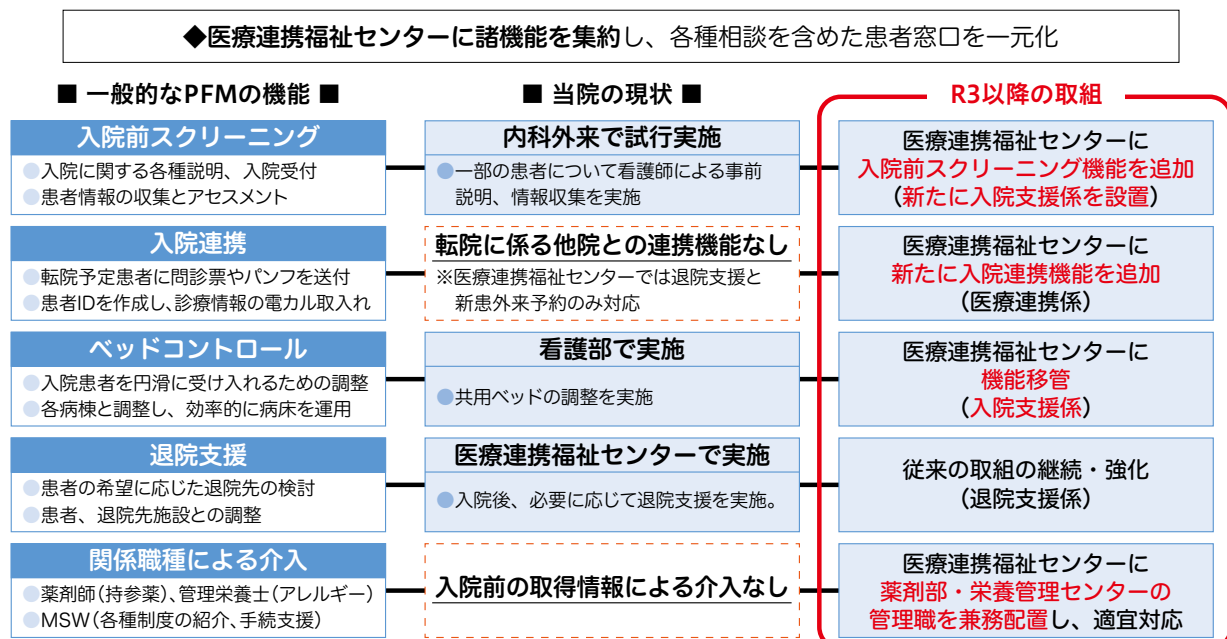
入院支援係 011-611-2111（内線38830）

【PFMとは】

PFM（Patient Flow Management）とは、**入院前に患者さんの基本情報を集めることでスムーズな入院治療の開始、合理的な病床管理、早期の退院支援が可能となる入院管理システム**であり、主に下記のようなメリットがあるとされています。

PFM導入の主なメリット	
患者の安心	入院前の情報収集による入院治療中のリスク回避、軽減 入院中の治療方針・費用の理解、退院後の不安解消
医療従事者の負担軽減	事前説明等による入院当日の病棟スタッフの負担軽減 地域連携部門を経由した転院受入による医師の負担軽減
病院経営の改善	スムーズな入退院による病床の効率的運用（平均在院日数減） 入院時支援加算の算定（入院前のスクリーニング実施） 病棟看護師の負担減による時間外勤務削減
地域包括ケアシステム構築	転院受入・退院調整による地域における医療の機能分化に寄与 地域連携パスを活用した他院との連携機能の強化

【PFMの各機能と当院での導入イメージ】



○入院連携業務について

医療連携福祉センターに令和3年4月より入院連携の担当が配置されました。

Dr to Drで当院に入院決定となった患者さんに関する必要な情報の取り寄せや照会（図1）、また、当院入院中の患者さんに対して他院からの診療情報提供や他院への診療情報提供依頼（図2）を行います。

入院連携専用のファックスを新たに設けましたので、こちらへの送信にご協力をお願いします。

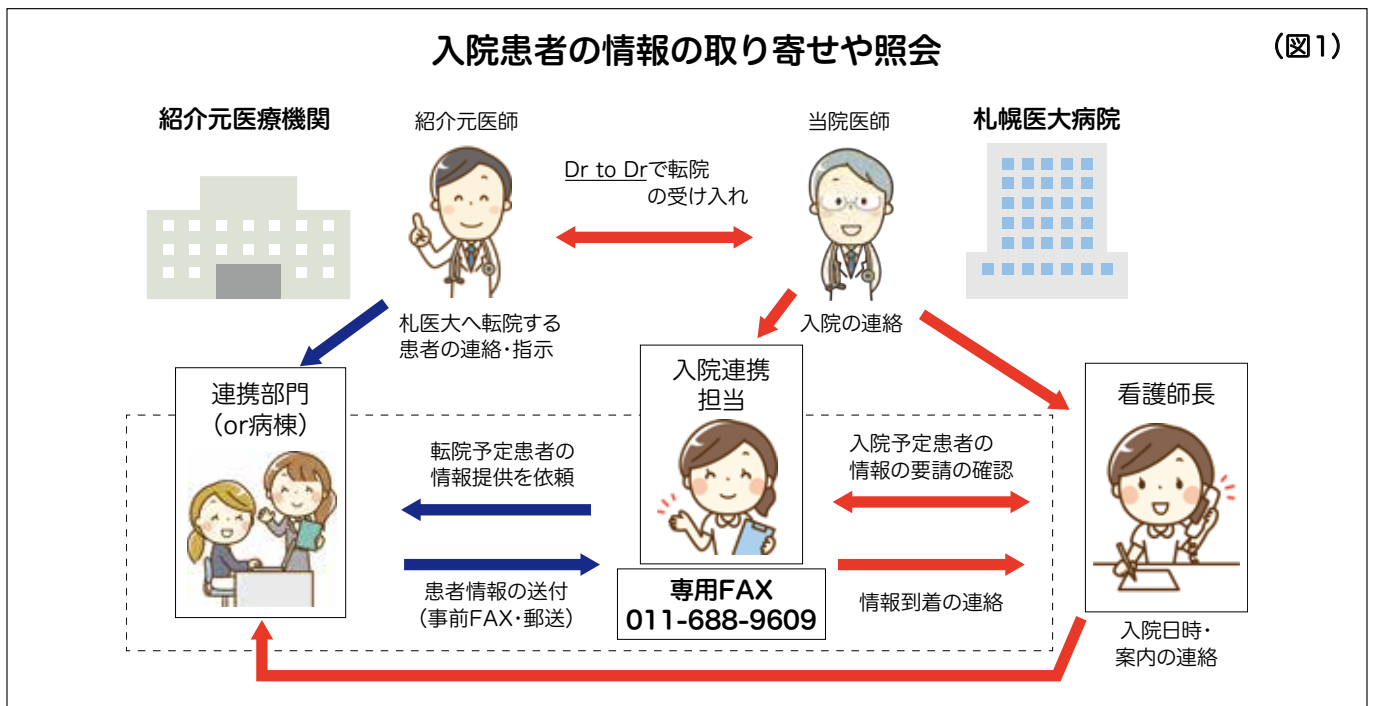
専用FAX番号：011-688-9609（新患外来予約先ではありません）

電話番号：011-611-2111（内線51190）

※月曜日から金曜日まで（祝祭日を除く）

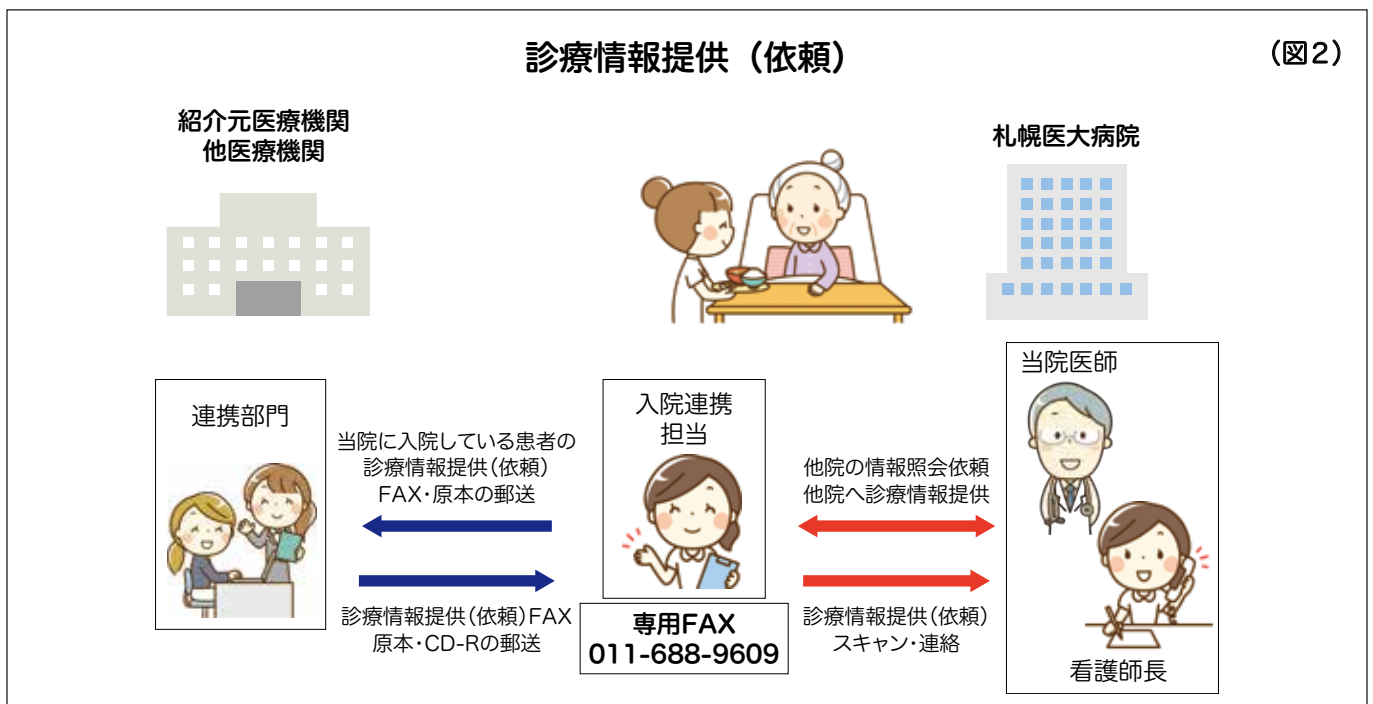
入院患者の情報の取り寄せや照会

(図1)



診療情報提供（依頼）

(図2)



○新患の外来受診予約について

医療連携係では各医療機関からファックスでの申し込みにより、新患外来予約の手続きを行っています。
今年度から**予約専用の申込用紙や予約の流れを一部変更**しておりますので、改めてご確認ください。

1. 新患外来予約の申し込み先等

専用FAX番号：011-621-2233

電話番号：011-611-2111（内線51240）

※月曜日から金曜日まで（祝祭日を除く）



2. 予約の申し込み方法

- ・新患外来予約専用の申込用紙「**新患外来診療予約申込書**」に記入の上、**ファックス**でお申し込みください。専用の書式は当院のホームページからダウンロードできます。
※お電話いただければ様式をお送りすることも可能です。

～新患外来受診予約のWebページ～

<https://web.sapmed.ac.jp/hospital/medical/mumhv60000002zmz.html>

- ・受付時間：午前 9：00～12：00まで
午後 13：00～16：00まで
※16時以降のファックス受信は、翌日の受付となります。
- ・患者さんご本人からの予約申込みは受け付けておりません。（遺伝子診療科、神経精神科を除く）
- ・**調整がつき次第、ファックスで予約票をお送りします。**医師指定の場合や受診希望の診療科によりましては、診療スケジュールを医師や外来看護師に確認した後のお返事となります。その際は、お返事にお時間、お日にちがかかる場合がありますのであらかじめご了承ください。
- ・お送りしました予約票は、貴院から患者さんへお渡しください。
- ・当日の新患外来受診の予約や検査のみの予約はできませんのでご注意ください。
- ・申込みをいただいても、疾病の内容などにより、当院では診療をお引き受けできない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

— 申込みファックスに関するお願い —

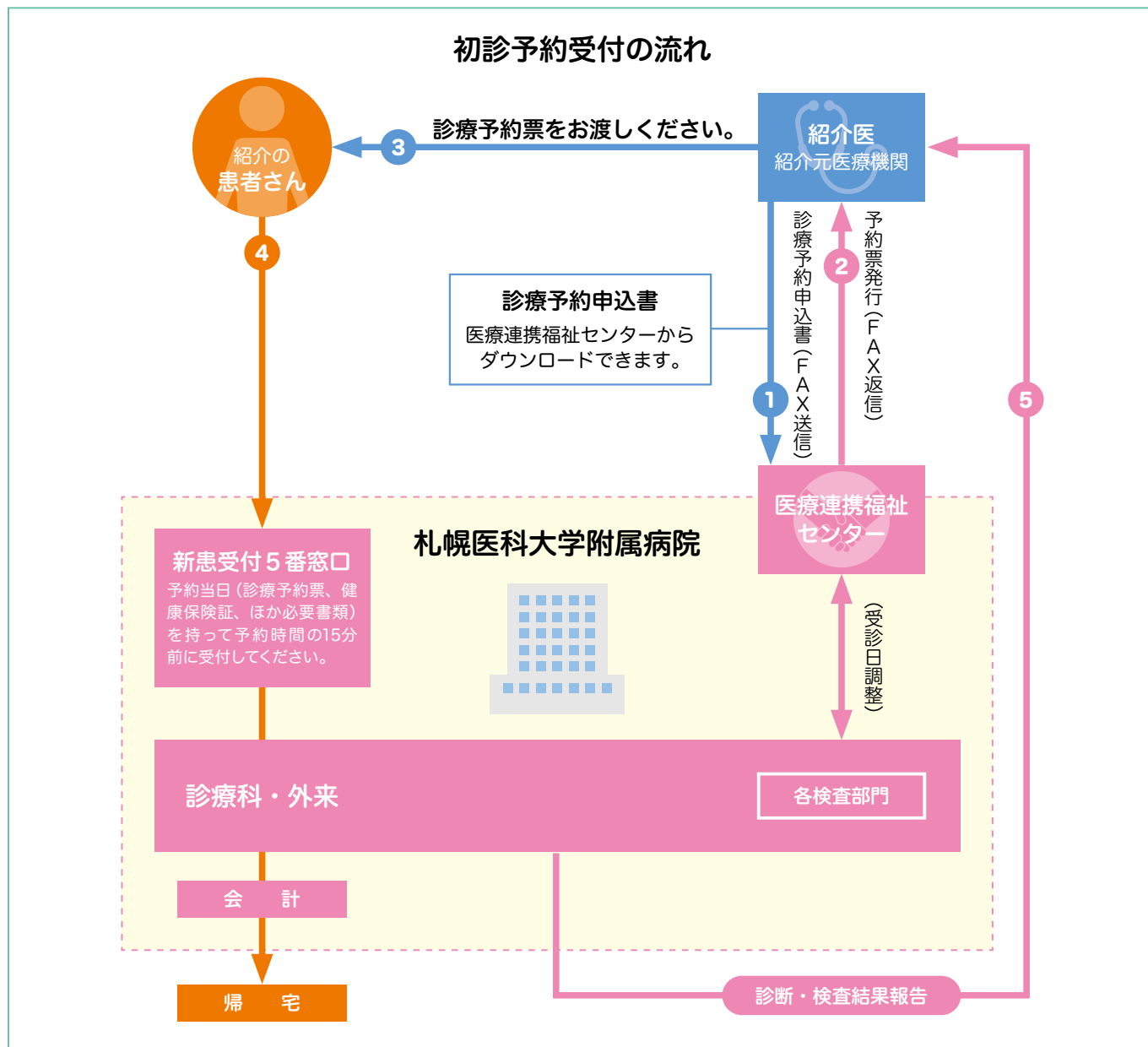
- ・**送信枚数が8枚以上になる場合は、あらかじめ電話でご連絡をお願いします。**混み合う時間を避けるようお願いする場合があります。特に、検査データ等の枚数が増える場合はご協力をお願いします。
- ・紙面による画像・写真の送信は真っ黒に印刷されるので、ご遠慮下さい。
- ・初診の申し込みではなく、再来受診の患者さんの事前の診療情報提供書の送信については、受け付けておりませんのでご了承下さい。受診当日の持参をお願いします。

3. 受診受付

- ・患者さんは、予約票、保険証、診療情報提供書などをお持ちの上、予約時間の15分前までに**新患受付5番窓口**で受け付けを済ませてから、外来でお待ちください。

医療連携係は少ないスタッフで実務にあたっております。また、ファックスが混み合いご迷惑をかけることもあると思いますが、今後ともよろしく願いいたします。

初診予約受付の流れ



(注意事項)

1. 通常診療

当院は特定機能病院であるため、初診の患者さんで他の医療機関からの紹介状をお持ちではない場合は、初診料とは別に保険適用外の**初診時一部負担金 (医科5,500円、歯科3,300円)**をご負担いただいております。臨床遺伝外来、神経精神科、免疫・リウマチ内科以外は予約なしでの受診もできますが、待ち時間軽減のためにも医療機関からの予約申し込みをおすすめします。

ただし、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、当面の間、当院を初めて受診される方は、他の医療機関からの紹介状をお持ちの方に限らせていただいておりますので、受診の際は当院ホームページのご確認をお願いします。

～当院ホームページ～

<https://web.sapmed.ac.jp/hospital/index.html>

2. 再来診療

同じ診療科で1年以内に受診歴がある場合は、「新患予約」の扱いになりませんので、「14:00～15:30」の間に**各診療科外来**にお問い合わせください。

※代表番号011-611-2111からオペレーターに外来名をお伝えください。

○入院 (転院) について

- 当院の入院予約になっている患者さんの入院日時の連絡は、決まり次第、医師または看護師長から連絡をしておりますのでお待ちください。
- 入院が決まった後の日程等の調整も各病棟で行っておりますので、不明な点があれば各病棟の看護師にお問い合わせください。
- 入院に関する診療情報提供書のファックス送信については取り次ぎますので、電話でご連絡の上、医療連携福祉センターのファックスに送信していただいで結構です。

○セカンドオピニオン外来について

当院では、セカンドオピニオン（第二の意見）を求める患者さんやそのご家族に対して、現在、診療を受けている医療機関からの紹介状と必要な資料に基づいて、当院の医師が、参考となる意見や判断を提供する「セカンドオピニオン外来」を開設しております。

●ご用意いただくもの

- ・主治医からの紹介状（お受けできるか判断するために、申込時に必要となります）
- ・画像、検査資料
- ・相談同意書（ご家族だけで面談の場合）等

●料金

1回 60分以内 22,000円（消費税込）

●申込方法

- ・当院申込書にご記入のうえ、ファックスでお申しください。（申込書は当院ホームページからもダウンロードできます。）
- ・医療機関からお申し込みの場合は、紹介状も一緒にファックスしてください。
- ・申込書を提出された方へご連絡後、日程を決定し、ご相談をお受けします。

～セカンドオピニオン外来のWebページ～

<https://web.sapmed.ac.jp/hospital/guide/mumhv60000002omq.html>

医療連携係 011-611-2111（内線51230）

編集後記

広報誌を御覧の皆様、はじめてご挨拶をさせていただきます。今年度より副センター長を拝命いたしました、小野聡子と申します。こちらに配属となる前は、平成26年よりがん看護相談を立ち上げ、がん患者・家族に対する相談支援を担当しておりました。はじめての連携業務に、周囲の協力を得ながら日々取り組んでおります。今まで、地域連携ということ念頭に置いてはありましたが、この場に来て、改めて地域連携とは何かを毎日体験しております。ここ数年、入院日数の短縮化にともない、退院後の生活を十分イメージ化できないまま退院となる方も増えているように感じておりました。地域に戻ってから生活を再構築せざるをえないケースも多く、地域の医療機関の皆様のお力を借りることで、生活の場にお戻りできていると実感する日々です。まだしばらくの間は、知識不足で皆様にご迷惑をおかけすることが多いかとは思いますが、地域の医療機関の皆様と連携しながら、退院される方が安心して生活に戻れるような退院支援を心がけたいと考えております。

今年度より、診療科はまだ限られておりますが、PFMが開始となりました。入院前からの情報収集が開始することで、よりスムーズな退院調整・地域連携につながることを期待しております。

今後COVID-19を巡る医療状況が、どのように変遷してゆくかわかりませんが、当院は可能な限り、感染症患者の救命に取り組み続けられると思われまます。地域に帰る患者さんを支えるために、皆様のお力をお借りすることが、より多くなるかと思っております。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

（医療連携福祉センター 副センター長兼退院支援係長
がん看護専門看護師 小野聡子）

札幌医科大学附属病院 医療連携福祉センター

相談係	内線31840、31890、31900、31910、31920、31960、38840
医療連携係	内線51210、51230、31320、〈入院連携担当〉51190
退院支援係	内線31930、51260、51270、51250
入院支援係	内線38830

〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目
TEL：011-611-2111（代表） FAX：011-621-2233
URL <https://web.sapmed.ac.jp/hospital/mpc/>